

13010 児童教育演習Ⅰ h Pupil Education Seminar I		3 年次～ 通年 4 単位	
担当者	小林 信悟	履修可能学科	Pe 必
		関 連 資 格	
サブタイトル	制作を通しての図画工作及び美術		
授業内容 ・ ねらい	図工・美術は、題材や素材、材料に触れ、手の延長線上としての道具と自らの内面の働きかけで成立するものと考えます。内容は、平面的なものから立体的なもの、加えて動くものまで、技法を要するものから素朴であるが発想の豊かなものまで、時に、戸外での制作もできたら加え、全体として制作活動を基本に進めていきます。制作の内容は、小学校の図画工作の中で展開出来るものを中心に構成していきます。学生が、ゆったりと自らの制作過程と美的に遊戯する空間を共有する中で、ゼミが互いの感性に触れる場となれればと思っています。 造形活動を補完する「ことば」からのアプローチは、①課題の意図（各課題のおもしろさと困難さ）。②「how to」の構造理解・段階分け・誘導性・力点の置き方。③成功と失敗の要素。④失敗を基点とした活動の可能性。⑤規範の再考。 方法 ・課題の各段階での意見交換・発表 ・教材化（意欲ある学生は、課題を記録しまとめ、冊子に） 「人の違いが視点の違い→作品の違い」を通奏低音とし、ゼミが各自のこれからの時の中で「自然な自分らしさ」を育む一助になればと希望します。		
授業計画	①石膏を風船に流し込む注型成形 ②ローソクで動くボンボン船 ③紙版画 ④樹脂系粘土による加熱造形 ⑤戸外活動 ⑥銅版画 ⑦型紙や創作による段ボールクラフト ⑧授業実践例からの制作 ⑨自主制作や卒業研究		
教科書 参考書	適宜、参考作品、スライド、プリント使用		
評価方法	作品は失敗しても、それも1つの成果であり問題点の発見です。制作過程での取り組みの様子、出席を重視します。		
事前準備学習 履修条件等	欠席がなく粘り強い学生を求めます。尚、後片付けへの協力と材料費を徴収します。 (10年度3000円予定)		